

## 第10回鳥取市市政改革推進市民委員会・議事概要

日時：令和4年2月7日（月） 午後3時00分から午後4時35分

会場：オンライン開催

出席者： 委員 9名出席

山下 博樹 委員長、川口 有美子 委員、竹本 剛 委員、田村 康悦 委員、  
中井 みずほ 委員、村尾 昌彦 委員、若山 敬之 委員、岸 舞 委員、奥村 稀良 委員  
鳥取市

行財政改革課：河口次長、谷口主査

### 会議内容

#### 1. 開会

#### 2. あいさつ

##### 委員長：

委員会の任期も終わりに近づきつつあり、今年度の活動のまとめをしていく時期になってきている。よろしくお願ひしたい。

#### 3. 議事

##### 鳥取市市政改革プラン担当課ヒアリング結果の集約

##### 委員長：

前回の委員会での担当課ヒアリング結果の取りまとめを行う。これは、委員会の活動報告として市長に提出する報告書に掲載する。追加の意見等あればお願ひしたい。

##### 事務局：

（参考資料1を説明）

##### 委員長：

資料1の枠下に、ヒアリング時の委員の意見がまとめられている。前回欠席の方、或いは改めての意見でもよいが、いかがか。

##### A委員：

前回のヒアリング時の皆さんの意見はもっともと思う。私は公共交通に関わる仕事をしており、県や市の交通政策に関わる部署には色々な要請をしている。

現在コロナにより、バス、タクシー事業者は企業の存続にかかわるような状況にある。また、運転手不足は長年の課題となっており、今後さらに加速していくと思われる。そのような中、主に中山間地域の公共交通のあり方として、共助交通等を推進していかないと困る方がいるのを痛感している。

**B委員：**

皆さんが出されている意見でよいと思う。山間部行きのバスに乗られる方も結構おられるので、そういう方々が不便にならないようにしてもらいたい。

**委員長：**

この事業の推進については、バスを減らしていくのではなく、どうやって地域交通を確保し、維持するかを模索して頑張っていくという意味で捉えたいが、資料に「公費負担の削減」と書かれており、予算削減が先にあり、お金がないからバスを走らせられないので、次善の策として共助交通に取り組みと見えると、先細りのイメージになる。

市が地域交通を大切に思っているところは、常に明らかにしておくべき。

**C委員：**

先ほどの説明にあった廃線になるかもしれない路線を通学に利用していた。鳥取市の中では大きな道路で、通勤通学で利用される方が多く、廃線になったら大変だろうと思っている。これまで廃線になった所と同じく共助交通や乗合いになるとは思うが、地域住民と事業者でどのような話し合いになるか、沿線地域に住む者として関心がある。

**委員長：**

続いて協働推進課の若者の参画促進について。

**事務局：**

(参考資料2を説明)

**委員長：**

前回の委員会では、ただ学生が楽しく活動して終わるのを心配する声があった。

**C委員：**

私の子どももサマースクールに参加しており、楽しそうにしていたので、毎年計画してもらえたら嬉しいが、大学生が地域と繋がって何が生まれるのか、学生にアルバイト代が入って終わるだけでは、と思ったこともある。

地域で育てて大学生になった子どもが参加し、地域の子ども達と繋がる、という流れができればいい。

**D委員：**

この事業は、若者の括りが大学生になっており、大学生にまちづくりにどんどん関わってもらうものだが、若者は大学生だけではない。

先ほど未来の大学生の話があり、そういう視点もいいと思ったが、学生は他県から来て卒業後帰ってしまうので、対象者を学生に限定せず、そこに住んでいる若い方も対象にした方が、持続性があると思う。

**委員長：**

鳥取大学も8割は県外の学生なので、地域の中心になるという点では持続的ではない。その地域に住んでいる人たちにリーダーシップを発揮できる人が繋がらないと持続しない。次の世代のリーダーを育てるのは、大学生に頼る方法では難しいと思う。そ

この問題意識の共有がポイントと思う。

**B委員：**

鳥取県の大学の学生は県外の方が多いが、このような活動を通じて鳥取で働いてみよう、住んでみようという人がわずかでもできるのなら、良い取り組みになるのでは。

そのような方は多くはないと思うが、今の学生にはちゃんと先を見据えている方も多いので、そのような見方もできると思う。

**委員長：**

20年程鳥取大学の学生を見てきて、県外から来て、何かのきっかけで鳥取に根づいた学生は1～2%という感じ。期待できるほどの数字ではないので、逆にどうやって鳥取に住みたいと思える魅力を見つけさせるのか、いろいろな仕掛けが必要。

**A委員：**

この事業は素晴らしい取り組みだが、皆さんが言われたように、若者によるまちづくりという観点から、また持続性を持つという意味でも、大学生ではなく幅広く、高校生から20代の社会人も含めることが、今後これが根づくためには必要ではないか。

また、皆さんの意見に同意したのは参画についてだが、その場だけの参加で終わるのではなく、今後どのように生かされていくのかがポイントになる。

**E委員：**

学生に新しいアイデアを出してもらおう空気感が、もう一つ良くないのかと思う。

大人の社会に触れることで、学生の可能性を広げるような取り組みがあってもいい。

例えば、最近はアクティビティも増えており、それらを通して交流プラス何かを考えよう、みたいな取り組みがあったら面白い。例えば私はカヤックのガイドをやっているが、そのような体験をしてみるとか、地域の若い人と学生の接点がなかなか無いので、一緒にキャンプをやるとか、そういったものがあれば可能性が広がるかもしれない。

**F委員：**

前回の委員会で委員長が、高校生が重要になってくると話されたが、高校生にこの取り組みを通して地域に入ってもらおうことが重要と思った。私も高校生の時に地元で様々な地域活動を行い、将来は地元に戻って貢献したいという思いでいる。

鳥取県出身の鳥取大学の学生から、鳥取には何も無いので友達は県外に出たという話をよく聞く。若者促進という政策からは離れてしまうが、高校生が地域に入り鳥取の魅力を知ってもらうことで、人口減少の歯止めになるのではないか。

**委員長：**

三つ目の職員課の女性活躍の推進について。

**事務局：**

(参考資料3を説明)

**委員長：**

女性の活躍ではあるが幅広い内容を含んだものになっている。

**G委員：**

鳥取市の会議や委員会に入っているが、今後はメールで対応するという割に郵便物が届くことが多い。一つ一つは小さなことだが、全庁で見ると結構な事務量になると思う。可能な削減はもっと考えられるのではないか。

また、テレワークについて市役所の業務的に馴染まないと言われたが、できない、馴染まないで止めずに、どうしたら出来るのかを考えた方がよい。

**B委員：**

前回の皆さんの意見に、「女性の意識を変える」等のフレーズが出てきたが、女性側が変わる問題ではないと思う。女性が、例えば管理職になるとか、仕事にける時間とかエネルギーを増やそうと思ったときに、家庭に割くエネルギーが同じままでは苦しいのではないか。その辺の意識に関する部分は制度でどうにかできることではないと思うが、そこに関する意識を持っておかないと辛い話になると思う。

**C委員：**

女性には子育てや家庭でやるのがたくさんあるので、管理職になったらさらに大変だというようなイメージがあり、これは実際大変だと思うが、女性だから男性だからという意識が根強いと感じた。

**委員長：**

他の組織でも似たような課題があると思うが、市役所の取り組みの進め方とか、或いは他所ではこんなこともやっている等あるか。

**H委員：**

鳥取市役所では女性が非常に活躍していると思っている。私の職場でも女性活躍を謳って様々な取り組みを行っているが、管理職の数は市役所の方が進んでいると感じている。資料を見ても様々な施策に取り組んでおられ、参考にしたいと思った。

以前職場で、若い優秀な女性職員が鳥取市ではないが市の採用試験を受けて転職していった話を聞いたが、そのような若い女性には、自分のやりがいや、将来設計を考えたときに市役所が魅力的に映るのだと思った。

**委員長：**

情報提供や男性の育児休業等、様々な条件を整えながら、しっかりやっていくべきと思う。最後に教育総務課の廃校の有効活用について。

**事務局：**

(参考資料4を説明)

**A委員：**

私の母校も以前に廃校となっており寂しいが、校舎と体育館は今も使われている。何かしらの形で活用してもらいたいが、将来的にそれが地域の活性化に繋がるかには疑問がある。旧成器小学校も、アトリエ小学校と地区体育館として使われているが、それで地域が活性化しているかと言えば、人口が減っている状況。活用はありがたいが、将

来どうなるのか分からない。

廃校の体育館のほとんどが地区体育館として残されているが、地区体育館を地域で使うことがあるのか疑問に思った。

**C委員：**

廃校の有効活用で、地域がコミュニティの核として活用していきたいところと、そうではないところがあると思う。活用について、まず地域に声を掛けてから、民間の方に声掛けをされるのか。

**事務局：**

学校は地域の中で大きな位置を占めている施設なので、まずは地域で利用いただけないか伺ってから、民間での活用を募っている。

**C委員：**

地域で活用する場合も、月額いくらという形で利用されるのか。

**事務局：**

地区体育館の場合は、体育館の使用料金をお支払いいただくが、地域の方が使う場合は多くの場合減免され、使用料がかからない。

**C委員：**

市としては、地域の方に活用してもらいたいということか。

**事務局：**

地域の方が活用されるのなら、そうしていただきたい。

**C委員：**

地域での利用が民間の足かせにならず、地域と民間がうまく連携できればよい。

**B委員：**

地域の利用を優先することについては、地域の皆さんが慣れ親しんだ施設なのでそうだと思うが、地域の方が使われている廃校でも、全部使われてない場合が結構あると思う。旧湖南中学校に教室を1つ借りている知り合いがいるが、その方がいる2階で常に人がいるのはその教室だけだが、一応活用されていることになっている。

民間事業者が入るとうまく活用されると思うので、先ほど言われたように、地域利用の優先は民間事業者の足かせになるのではないか。

**委員長：**

地域が使いたい場合は、優先権は地域にありそうなイメージはあるが、どちらが有効活用するのかという観点で考えると、必ずしも地域を優先しなくても、民間が活用し、今空き家等利用可能な場所は多いので、地域にはそちらを使ってもらえるのはどうか。

地域の公共的な資産としての役割を優先するのか、市の資産として有効に活用できるのを優先するのか、今までは地元優先という考えが強かったが、先ほどご意見があったように、日常的に使われているスペースはごくごく限られているというような例もあるため、状況を検証しながら新しいルールや考え方が出てきてもよいと思う。

今追加でいただいた意見等は事務局で集約してもらい、報告書に盛り込んでいく。  
続いて、鳥取市市政改革プラン実施計画外部評価結果報告書について。

## **鳥取市市政改革プラン実施計画外部評価結果報告書について**

### **事務局：**

(資料3を説明)

### **委員長：**

資料3がこの2年間の委員会の活動報告書として、最後に市長に提出する成果物となる。

内容は、この前身の委員会も同じような感じだったが、今回は市役所内部の業務に関わる市政改革が主な対象なので、これまでの委員会とは異なる所も多い。報告書の骨組みや内容について、現時点では事務局より提案されているとおりである。

先ほどの、4ページ目の評価結果のところ、73計画のうち60計画について全員が妥当だという評価で、約8割ということで、全体を通して概ね妥当であるのは、「そうか」という感じである。逆に言うと2割近くが何らかの意見があり、妥当でないという評価だったことについて、事務局の率直な感想はどうか。

### **事務局：**

8割が概ね妥当という評価をいただいたが、その中でも様々な意見があったことがよかった。残り2割についても前向きなご意見をいただいているので、市長にしっかりと伝えていただき、全73事業がよりよいものになれば、この報告書の意味があると思う。数字にこだわらずに様々な意見を頂戴したい。

### **委員長：**

今回の委員会の仕事は、各担当課の自己評価が妥当かを評価するものだったので、8割が概ね妥当という結果に関してはそうかもしれないが、むしろその下の4ページの真ん中の表の意見が、我々が言いたかった事になるだろう。

それをしっかり担当課に確認してもらい、来年度以降の評価に反映することで、内容を分かりやすいものにしてもらうこと等が、この2年間の成果になるのではないかと。

### **D委員：**

A4版の1ページの半分くらいでもよいので、締め言葉的な文章があってもよいと感じた。前は無かったと思うが、このような報告書には掲載することが多い。

### **委員長：**

今まで締め言葉はあったか。

### **事務局：**

これまで無かったので取り入れたい。

### **委員長：**

締め言葉について、一つは我々の委員会の役割は、担当課の自己評価の検証が大きい

な仕事だったが、それだけではなく、実施計画が有効に進められているか、或いはその評価の仕方等が妥当かというところまで踏み込んで意見したので、そこをしっかりと酌み取ってもらいたい。これは私の思いなので、皆さんもこの2年間で感じたことや、例えばこんなことに取り組んでほしい、等提案いただきたい。

先程の女性活躍も、少しもやもやした形で意見交換が終わったが、その辺りを掘り下げて、コメントの中に込めてもいいと思うが、それは女性だけに限らず障がいのある方等様々な方が市役所の中で活躍できる、そういう職場であって欲しいということにも繋がるかもしれない。

またメール等で、事務局に意見を寄せてもらう形でどうか。

**事務局：**

事務局より意見を募集する。

**委員長：**

ヒアリングについても、意見等があれば事務局の方に寄せてもらうのと、今の締め言葉に盛り込むようなものがあれば提案してほしい。

それでは、鳥取市市政改革プラン実施計画外部評価結果報告書の素案について、最終的にこのようにまとめる方向性として了解いただけるか。

(委員全員了承)

**4. その他**

**事務局：**

次回の委員会は、評価結果報告書の取りまとめとして、3月中頃を予定している。

**5. 閉会**

**委員長：**

では以上をもって、今日は終わりにしたい。